4章 実践例

1 1年生の単元計画表

	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	
導入 5分程度	ランニング・準備運動 整列・点呼 挨拶 健康観察 本時の目標・予定	ランニング・準備運動 整列・点呼 挨拶（合掌礼） 健康観察 本時の目標・予定				
展開 35分程度	礼法・作法の練習 ・合掌礼／立ち方／座り方 （着座／安座） 基本動作の練習 ・中段構／八相構 ・運歩の練習 ・上段逆突／上段順突 ・中段逆突／中段順突 ・中段逆蹴／中段順蹴	講話（拳禅一如） 礼法・作法の復習 ・合掌礼／立ち方／座り方 （着座／安座） 基本動作の練習 ・中段構／八相構 ・運歩の練習 ・気合のかけ方 ・上段逆突／上段順突 ・中段逆突／中段順突 ・中段逆蹴／中段順蹴 ・上受／内受／下受	講話（守主攻従） 礼法・作法の復習 ・合掌礼／立ち方／座り方 （着座／安座） 基本動作の復習 ・中段構／八相構 ・運歩の練習 ・気合のかけ方 ・上段逆突／上段順突 ・中段逆突／中段順突 ・中段逆蹴／中段順蹴 ・上受／内受／下受 基本となる技 （ペアワーク） ・下受蹴	講話（不殺活人） 礼法・作法の復習 ・合掌礼／立ち方／座り方 （着座／安座） 基本動作の復習 ・中段構／八相構 ・運歩の練習 ・気合のかけ方 ・上段逆突／上段順突 ・中段逆突／中段順突 ・中段逆蹴／中段順蹴 ・上受／内受／下受 基本となる技 （ペアワーク） ・下受蹴 ・下受順蹴	講話（剛柔一体） 礼法・作法の復習 ・合掌礼／立ち方／座り方 （着座／安座） 基本動作の復習 ・中段構／八相構 ・運歩の練習 ・気合のかけ方 ・上段逆突／上段順突 ・中段逆突／中段順突 ・中段逆蹴／中段順蹴 ・上受／内受／下受 基本となる技 （ペアワーク） ・下受蹴 ・下受順蹴 ・切抜	
まとめ 10分程度	整理運動 本時の振り返りとまとめ（自己評価シート、ワークシート等） 次回の予告 挨拶（合掌礼）					
関心・意欲・態度	相手を尊重し伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。		武道の学習に積極的に取り組もうとしている。	武道の学習に積極的に取り組もうとしている。	武道の学習に積極的に取り組もうとしている。	
思考・判断						
技能		攻防を展開するための基本動作ができている。				
知識・理解		少林寺拳法の特性や伝統的な考え方について、理解したことを話したり書き出したりしている。	少林寺拳法の特性や伝統的な考え方について、理解したことを話したり書き出したりしている。	少林寺拳法の特性や伝統的な考え方について、理解したことを話したり書き出したりしている。	少林寺拳法の特性や伝統的な考え方について、理解したことを話したり書き出したりしている。	

	第６時	第７時	第８時	第９時	評価方法
	ランニング・準備運動 整列・点呼 挨拶（合掌礼） 健康観察 本時の目標・予定				観察 自己評価シート ワークシート 技能テスト ・演武発表会（試合） など
	礼法・作法の復習 ・合掌礼／立ち方／座り方 （着座／安座） 基本動作の復習 ・中段構／八相構 ・運歩の練習 ・気合のかけ方 ・上段逆突／上段順突 ・中段逆突／中段順突 ・中段逆蹴／中段順蹴 ・上受／内受／下受 基本となる技 （ペアワーク） ・下受蹴 ・下受順蹴 ・切抜 ・上膊抜	講話（自他共楽） 礼法・作法の復習 ・合掌礼／立ち方／座り方 （着座／安座） 審判・採点のポイント説明 基本となる技 （グループワーク） ・下受蹴 ・下受順蹴 ・切抜 ・上膊抜	礼法・作法の練習 ・合掌礼／演武発表会（試合）での作法 演武発表会（試合）の練習 ・発表方法・審判・採点の仕方の説明 ・演武発表の練習 （グループワーク） ・下受蹴 ・下受順蹴 ・切抜 ・上膊抜	礼法・作法の復習 ・合掌礼／演武発表会（試合）での作法 演武発表会（試合） ・発表方法・審判・採点の仕方の確認 ・演武発表の練習 （グループワーク） ・下受蹴 ・下受順蹴 ・切抜 ・上膊抜	
	整理運動 本時の振り返りとまとめ（自己評価シート、ワークシート等） 次回の予告 挨拶（合掌礼）				
		仲間の学習を援助しようとしている。	仲間の学習を援助しようとしている。		
	学習した安全上の留意点を練習場面に当てはめている	仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見つけている。	課題に応じた練習方法を選んでいる。		
	攻防を展開するための相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技ができている。			攻防を展開するための相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技ができている。	
				技の名称や行い方、演武発表会（試合）の行い方、審判の仕方について学習した具体例を挙げている。	

2 単元計画例（２年生９時間）

(1) 単元名

１） 少林寺拳法（領域：武道）

(2) 単元（題材）観

１） 少林寺拳法について

少林寺拳法は昭和 22（1947）年、創始者宗道臣によって自信と勇気と行動力と慈悲心を持った社会で役立つ人を育てる「人づくりの道」として香川県において創始された日本の武道である。自分の心と体を養いながら、他人と共に助け合い、幸せに生きることを説く「教え」と、自身の成長を実感し、相手とともに上達を楽しむ「技法」、そしてその教えと技法を遊離させないための「教育システム」が一体となっている。人間は大きな可能性を秘めている。少林寺拳法は、自己の可能性を信じ、物心ともに平和で豊かな社会を築くために行動できる人を育てることを目指している。

２） 教育基本法が示す教育の目的との関連

１）で説明したが、少林寺拳法の創始以来の目的は、「人づくりによる国づくり」である。平和で豊かな国を築くためには、自信と勇気、行動力と慈悲心を持った人を１人でも多く育てることである。教育基本法による教育の目的は「人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成」である。少林寺拳法を題材とすることは、この教育の目的を実現することにつながる。

３） 学習指導要領が示す道徳教育との連携

平成 27（2015）年３月一部改訂の学習指導要領第１章総則の第１には「学校における道徳教育は、特別の教科である道徳（以下「道徳科」という）を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、生徒の発達の段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない」とある。また、第２章各教科・保健体育には「第３章特別の教科道徳の第２に示す内容について保健体育科の特質に応じて適切な指導をすること」とある。

少林寺拳法には、相手と直接的に攻防しながら技能を高めたり、発表したりする特徴がある。そのため、互いに相手を尊重し合うための礼法や作法を指導し、自分で自分を律する克己の心を表すものとして、礼儀を守るという考え方があることを指導する。このように保健体育・武道で扱う伝統的な行動の仕方と考え方を指導することは、道徳科で扱う内容と深く関連している。少林寺拳法は、学校で行う道徳教育の目標の達成においても効果的な題材と考えられる。

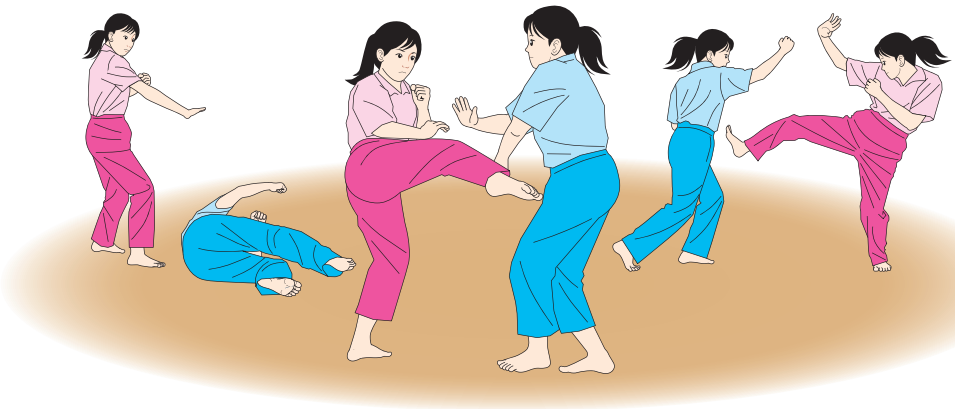
(3)　単元目標

1）　仲間と共に学び合い、上達する楽しさや喜びを味わうとともに、基本となる技を用いて相手の動きに応じた攻防ができるようになる。

2）　礼法作法の指導と少林寺拳法の特徴を学び、伝統的な行動の仕方と考え方を理解し、日常生活に生かせるようになる。

(4)　単元の評価規準

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
・相手を尊重し伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。 ・武道の学習に積極的に取り組もうとしている。 ・仲間の学習を援助しようとしている。	・仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見付けている。 ・課題に応じた練習方法を選んでいる。 ・学習した安全上の留意点を練習場面に当てはめている。	・攻防を展開するための相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技ができている。	・少林寺拳法の特性や伝統的な考え方について、理解したことを話したり書き出したりしている ・技の名称や行い方、演武発表会（試合）の行い方、審判の仕方について学習した具体例を挙げている。



(5) 単元指導計画

次	時	主たる学習活動・内容	評価の観点				評価規準（評価の方法）
			関	思	技	知	
一	1	・礼法・作法の練習。 ・音楽のリズムに合わせて基本動作の練習をする。	◎ ○				◎相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。【関心・意欲・態度】 ○音楽のリズムにあわせて、楽しみながら基本動作の練習をし、少林寺拳法への関心を高める。【関心・意欲・態度】 （生徒が自己評価シートに記入する本時の振り返りとまとめ、教員の観察を評価の方法とする）
	2	・音楽のリズムに合わせて基本動作の練習をする。 ・講話（武の本質）			○	◎	◎伝統的な考え方を自分の言葉でまとめることができている。【知識・理解】 ○音楽のリズムにあわせて、楽しみながら基本動作を身に付けている。【技能】 （生徒が自己評価シートに記入する本時の振り返りとまとめ、教員の観察を評価の方法とする）
二	3	・基本となる技（内受突）の練習をする。 ・講話（組手主体）		◎	○		◎自分の役割を理解し、協力の仕方を考えて練習しようとしている。【思考・判断】 ○基本となる技（内受突）の動作ができている。【技能】 （生徒が自己評価シートに記入する本時の振り返りとまとめ、教員の観察を評価の方法とする）
	4	・基本となる技（小手抜）の練習をする。 ・講話（自己確立）			○	◎	◎伝統的な考え方を学び、人間として望ましい行動の仕方をしようとしている。【知識・理解】 ○小手抜の動作ができている。【技能】 （生徒が自己評価シート記に入する本時の振り返りとまとめ、教員の観察を評価の方法とする）
	5	・基本となる技（上受蹴）の練習 ・講話（力愛不二（りきあいふに））			○	◎	◎伝統的な考え方を自分の言葉でまとめることができている。【知識・理解】 ○上受蹴の動作ができている。【技能】 （生徒が自己評価シートに記入する本時の振り返りとまとめ、教員の観察を評価の方法とする）
	6	・基本となる技（巻小手）の練習 ・講話（脚下照顧）	◎		○		◎伝統的な考え方を学び、人間として望ましい行動の仕方をしようとしている。【関心・意欲・態度】 ○巻小手の動作ができるようになる。【技能】 （生徒が自己評価シートに記入する本時の振り返りとまとめ、教員の観察を評価の方法とする）

次	時	主たる学習活動・内容	評価の観点				評価規準（評価の方法）
			関	思	技	知	
三	7	・審判の仕方と採点基準 ・演武練習 ・講話（求める人間像）		◎	○		◎技のポイントや採点基準と課題、安全上の留意点を考え、仲間と意見を交わしながら練習しようとしている。【思考・判断】 ○基本となる技を用いて攻防ができている。【技能】 （生徒が自己評価シートに記入する本時の振り返りとまとめ、教員の観察を評価の方法とする）
	8	・演武発表会（試合）の行い方・審判の仕方 ・演武練習		◎	○		◎演武発表会（試合）の行い方と課題、安全上の留意点を考え、仲間と意見を交わしながら練習しようとしている。【思考・判断】 ○基本となる技を用いて攻防ができている。【技能】 （生徒が自己評価シートに記入する本時の振り返りとまとめ、教員の観察を評価の方法とする）
	9	・ 演武発表会（試合）			◎	○	◎基本となる技の攻防を用いて演武ができている。【技能】 ○伝統的な行動の仕方、採点基準、技のポイントを理解し、演武発表会（試合）の審判ができている。【知識・理解】 （生徒が自己評価シートに記入する本時の振り返りとまとめ、技能の評価、審判の仕方の評価は、生徒用・教員用の演武採点シートを評価の方法とする）

(6) 指導のポイント

少林寺拳法を題材として、生徒が興味・関心を持って学習に取り組み、体力の向上や知識・技能の習得に加えて、思考力・判断力・表現力も高めることを目指して、下記のとおり指導の方法を工夫する。

1) 目標を示す

単元、授業の目標を示し、何をどのように学ぶのかを明確にする。また、目標が明確になることで、生徒の学習意欲を高め、主体的に授業のまとめや振り返りをすることができる。生徒が「できた」という喜びや達成感や「できる」という自己肯定感を持てるようにしたり、単元や授業に見通しを立てやすくしたりするために、適切な目標を示すことは大切である。

2) ペアワーク・グループワークで行うアクティブラーニング

ペアワーク・グループワークを活用し、基本動作や基本となる技の練習をすることで、自分で考え表現したり、他の生徒の意見を取り入れたり、生徒が主体的に練習する場面をつくる。また、互いに練習相手になったり、技の行い方などの学習課題の解決に向けて教え合ったりすることで言語活動を充実させる場面をつくる。ICT を活用し、撮影した自分たちの技能の映像を見ながら、課題を見付け、グループで課題解決する場面をつくる。このような学習場面をつくることで、思考力・判断力・表現力を高めることができる。

3) 発表する

発表することで、学習した内容の成果を確認したり、互いに見せ合い教え合うことで課題を見付けたり、協力して課題を解決しようとする態度を養うことができる。

4) 自分でまとめる

目標の達成に向けてどのような学習をしたか、意欲的に取り組めたかなどを振り返り、自分で授業のまとめをすることで、学習内容の定着を図るとともに思考力を高める。

5) 挨拶を大切にする

少林寺拳法では、合掌礼を用いる。生徒同士、挨拶が正しくできているか互いに確認することができる。正しく挨拶をする教員の姿勢が生徒の模範となる。武道の授業から学習規律を確立することは、規律ある学校生活の確立につながる。

3　学習指導案（２年生９時間）

（1）　学習指導案（第一次　第１時）

本時の目　標

◎相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとする。【関心・意欲・態度】
○音楽のリズムに合わせて、楽しみながら基本動作の練習をし、少林寺拳法への関心を高める。【関心・意欲・態度】

過程	学習内容	指導上の留意点	評価（評価方法）
導入5分	1　ランニング・準備運動をする。 2　整列、点呼、挨拶をする。 3　健康観察、爪など、安全面・健康面の確認をする。 4　本時の目標を聞く。	・生徒が傷害の予防や、安全に対する意識を高められるような声かけをする。 ・正しい挨拶ができるように指示する。 ・練習場の状態、健康状態や爪の長さを確認し、生徒の健康・安全に対する意識を高める。 ・本時の目標と予定をスクリーンに提示し、授業に見通しを持たせ、学習意欲を高める（コンピュータ、プロジェクタ、スクリーン）。	
展開35分	1　礼法・作法の練習をする。 ・合掌礼を学習する。 ・立ち方・座り方を学習する。 2　音楽に合わせて基本動作の練習をする。	・礼法・作法の仕方と意味を学び、伝統的な行動・考え方に関心を持たせ、気持ちを込めた正しい挨拶や作法ができるようにする。 ・１つの号令に１つの動作を割り振り、号令と動作をスクリーンに大きく提示して練習し、動作を覚えやすくする（コンピュータ、プロジェクタ、スクリーン）。 ・生徒がよく知っている音楽に合わせて練習し、楽しみながら動作を覚えやすくする。 ・意欲的に取り組める雰囲気を保つために教員は明るく前向きな声かけを工夫する。	◎相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。【関心・意欲・態度】（自己評価シート、ワークシート、教員の観察） ○音楽のリズムにあわせて練習し、楽しみながら少林寺拳法への関心を高める。【関心・意欲・態度】（自己評価シート、教員の観察）
まとめ10分	1　整理運動をする。 2　本時の振り返りとまとめ、自己評価シートに記入する。 3　健康観察をする。 4　次回の予告を聞く。 5　挨拶をし、片付けをする。	・よく使った部位を意識して整理運動をさせる。 ・本時の目標や学習内容をスクリーンに提示し、生徒が自己評価や授業のまとめをしやすいようにする。生徒が自分で授業のまとめをすることで、学習内容の定着と思考力、判断力、表現力を高める。 ・自分や周囲の生徒の健康を観察するよう指示し、自他の健康・安全についての意識を高める。 ・次回の予告をし、学習の準備性を高める。 ・礼法・作法の仕方を確認し、気持ちを込めた正しい挨拶ができるようにする。	＊本時の目標に対する評価の方法の１つとなる。 ・相手を大切にする礼法ができたか。【関心・意欲・態度】

（2） 学習指導案（第一次　第２時）

本時の目　標

◎「武の本質」を学び、伝統的な考え方を自分の言葉でまとめることができる。【知識・理解】
○音楽のリズムにあわせて、楽しみながら基本動作を身に付ける。【技能】

過程	学習内容	指導上の留意点	評価（評価方法）
導入5分	1　ランニング・準備運動をする。 2　整列、点呼、挨拶をする。 3　健康観察、爪など、安全面・健康面の確認をする。 4　本時の目標を聞く。	・生徒が傷害の予防や、安全に対する意識を高められるような声かけをする。 ・礼法・作法の復習をし、伝統的な行動・考え方に関心を持たせ、気持ちを込めた正しい挨拶・作法ができるようにする。 ・練習場の状態、健康状態や爪の長さを確認し、生徒の健康・安全に対する意識を高める。 ・本時の目標と予定をスクリーンに提示し、授業に見通しを持たせ、学習意欲を高める（コンピュータ、プロジェクタ、スクリーン）。	＊関心・意欲・態度や知識・理解の観点に当てることも可能。
展開35分	1　講話（武の本質）を聞く。 2　音楽に合わせて基本動作の練習をする。	・武という漢字の成り立ちと意味をスライドショーで説明し、武道を学ぶことの意味を考えさせるとともに、伝統的な考え方についての理解が深まるようにする。 ・生徒がよく知っている音楽に合わせて練習し、楽しみながら動作を覚えやすくする。 ・回数をかけて練習し、運動量を確保するとともに、基本動作の定着を図る。	◎伝統的な考え方を自分の言葉でまとめることができている。【知識・理解】（自己評価シート） ○音楽のリズムに合わせて、楽しみながら基本動作を身に付けている。【技能】（自己評価シート、教員の観察）
まとめ10分	1　整理運動をする。 2　本時の振り返りとまとめ、自己評価シートに記入する。 3　健康観察をする。 4　次回の予告を聞く。 5　挨拶をし、片付けをする。	・よく使った部位を意識して整理運動をさせる。 ・本時の目標や学習内容をスクリーンに提示し、生徒が自己評価や授業のまとめをしやすいようにする。生徒が自分で授業のまとめをすることで、学習内容の定着と思考力、判断力、表現力を高める。 ・自分や周囲の生徒の健康を観察するよう指示し、自他の健康・安全についての意識を高める。 ・次回の予告をし、学習の準備性を高める。 ・礼法・作法の仕方を確認し、気持ちを込めた正しい挨拶ができるようにする。	＊本時の目標に対する評価の方法の１つとなる。

（3）　学習指導案（第二次　第３時）

本時の目　標

◎自分の役割を理解し、協力の仕方を考えながら練習することができる。【思考・判断】
○基本となる技（内受突）の動作ができる。【技能】

過程	学習内容	指導上の留意点	評価（評価方法）
導入5分	1　ランニング・準備運動をする。 2　整列、点呼、挨拶をする。 3　健康観察、爪など、安全面・健康面の確認をする。 4　本時の目標を聞く。	・生徒が傷害の予防や、安全に対する意識を高められるような声かけをする。 ・礼法・作法の復習をし、伝統的な行動・考え方に関心を持たせ、気持ちを込めた正しい挨拶・作法の定着を図る。 ・練習場の状態、健康状態や爪の長さを確認し、生徒の健康・安全に対する意識を高める。 ・本時の目標と予定をスクリーンに提示し、授業に見通しを持たせ、学習意欲を高める（コンピュータ、プロジェクタ、スクリーン）。	
展開35分	1　講話（組手主体）を聞く。 2　基本となる技（内受突）の練習をする。	・２人１組で練習することの意味を理解し、教え合い協力し合って、ともに上達する喜びを感じられるようにする。 ・攻者と守者それぞれの動作に号令を付けて、全員で練習し、技のポイントを覚える。ポイントが理解できたら、２人１組で練習する。 ・２人１組で、教え合いながら練習することで、生徒が、教え方や説明の仕方などを考えられるようにする。また、課題を見付け、解決する方法を考えながら、内受突の動作ができるようにする。 ・練習相手を適宜代えることで協力の仕方を工夫する場面をつくる。	◎自分の役割を理解し、協力の仕方を考えて練習しようとしている。【思考・判断】（自己評価シート、教員の観察） ○内受突の動作ができている。【技能】（自己評価シート、教員の観察）
まとめ10分	1　整理運動をする。 2　本時の振り返りとまとめ、自己評価シートに記入する。 3　健康観察をする。 4　次回の予告を聞く。 5　挨拶をし、片付けをする。	・よく使った部位を意識して整理運動をさせる。 ・本時の目標や学習内容をスクリーンに提示し、生徒が自己評価や授業のまとめをしやすいようにする。生徒が自分で授業のまとめをすることで、学習内容の定着と思考力、判断力、表現力を高める。 ・自分や周囲の生徒の健康を観察するよう指示し、自他の健康・安全についての意識を高める。 ・次回の予告をし、学習の準備性を高める。 ・礼法・作法の仕方を確認し、気持ちを込めた正しい挨拶ができるようにする。	＊本時の目標に対する評価の方法の１つとなる。

(4) 学習指導案（第二次　第４時）

本時の目　標

◎伝統的な考え方を学び、人間として望ましい行動をしようとする。【関心・意欲・態度】
○基本となる技（小手抜）の動作ができる。【技能】

過程	学習内容	指導上の留意点	評価（評価方法）
導入5分	1　ランニング・準備運動をする。 2　整列、点呼、挨拶をする。 3　健康観察、爪など、安全面・健康面の確認をする。 4　本時の目標を聞く。	・生徒が傷害の予防や、安全に対する意識を高められるような声かけをする。 ・礼法・作法の復習をし、伝統的な行動・考え方に関心を持たせ、気持ちを込めた正しい挨拶・作法ができるようにする。 ・練習場の状態、健康状態や爪の長さを確認し、生徒の健康・安全に対する意識を高める。 ・本時の目標と予定をスクリーンに提示し、授業に見通しを持たせ、学習意欲を高める（コンピュータ、プロジェクタ、スクリーン）。	
展開35分	1　講話（自己確立）を聞く。 2　基本となる技（小手抜）の練習をする。	・自己確立の意味を学び、自己を高めることが、自らの心を豊かにすること、自己肯定感と他者を尊重する心を育むことを理解し、そのための努力を惜しまない態度を、練習の中で身に付けるようにする。 ・攻者と守者それぞれの動作に号令を付けて、全員で練習し、技のポイントを覚える。ポイントが理解できたら、２人１組で練習する。 ・２人１組で、教え合いながら練習することで、生徒が、自己肯定感と他者を尊重する心を育めるようにする。 ・練習相手を適宜代えることで、協力の仕方を工夫する場面をつくる。	◎伝統的な考え方を学び、人間として望ましい行動をしようとしている。 【関心・意欲・態度】（自己評価シート、教員の観察） ○小手抜の動作ができている。 【技能】（自己評価シート、教員の観察）
まとめ10分	1　整理運動をする。 2　本時の振り返りとまとめ、自己評価シートに記入する。 3　健康観察をする。 4　次回の予告を聞く。 5　挨拶をし、片付けをする。	・よく使った部位を意識して整理運動をさせる。 ・本時の目標や学習内容をスクリーンに提示し、生徒が自己評価や授業のまとめをしやすいようにする。生徒が自分で授業のまとめをすることで、学習内容の定着と思考力、判断力、表現力を高める。 ・自分や周囲の生徒の健康を観察するよう指示し、自他の健康・安全についての意識を高める。 ・次回の予告をし、学習の準備性を高める。 ・礼法・作法の仕方を確認し、気持ちを込めた正しい挨拶ができるようにする。	＊本時の目標に対する評価の方法の１つとなる。 ・相手を大切にする礼法ができたか。 【関心・意欲・態度】

(5)　学習指導案（第二次　第 5 時）

本時の目　標

◎「力愛不二」を学び、伝統的な考え方を自分の言葉でまとめることができる。【知識・理解】
○基本となる技（上受蹴）の動作ができる。【技能】

過程	学習内容	指導上の留意点	評価（評価方法）
導入 5 分	1　ランニング・準備運動をする。 2　整列、点呼、挨拶をする。 3　健康観察、爪など、安全面・健康面の確認をする。 4　本時の目標を聞く。	・生徒が傷害の予防や、安全に対する意識を高められるような声かけをする。 ・礼法・作法の復習をし、伝統的な行動・考え方に関心を持たせ、気持ちを込めた正しい挨拶・作法ができるようにする。 ・練習場の状態、健康状態や爪の長さを確認し、生徒の健康・安全に対する意識を高める。 ・本時の目標と予定をスクリーンに提示し、授業に見通しを持たせ、学習意欲を高める（コンピュータ、プロジェクタ、スクリーン）。	
展開 35 分	1　講話（力愛不二）を聞く。 2　基本となる技（上受蹴）の練習をする。	・慈悲心と行動力の調和を意味する力愛不二の教えを学び、武道の技術を、正しい行為にのみ使おうとする心のあり方を理解できるようにする。 ・攻者と守者それぞれの動作に号令を付けて、全員で練習し、技のポイントを覚える。ポイントが理解できたら、2 人 1 組で練習する。 ・練習相手を適宜代えることで、協力の仕方を工夫する場面をつくる。	◎伝統的な考え方を自分の言葉でまとめることができている。【知識・理解】（自己評価シート） ○上受蹴の動作ができている。【技能】（自己評価シート、教員の観察）
まとめ 10 分	1　整理運動をする。 2　本時の振り返りとまとめ、自己評価シートに記入する。 3　健康観察をする。 4　次回の予告を聞く。 5　挨拶をし、片付けをする。	・よく使った部位を意識して整理運動をさせる。 ・本時の目標や学習内容をスクリーンに提示し、生徒が自己評価や授業のまとめをしやすいようにする。生徒が自分で授業のまとめをすることで、学習内容の定着と思考力、判断力、表現力を高める。 ・自分や周囲の生徒の健康を観察するよう指示し、自他の健康・安全についての意識を高める。 ・次回の予告をし、学習の準備性を高める。 ・礼法・作法の仕方を確認し、気持ちを込めた正しい挨拶ができるようにする。	＊本時の目標に対する評価の方法の 1 つとなる。

(6) 学習指導案（第二次　第６時）

本時の目　標

◎伝統的な考え方を学び、人間として望ましい行動ができる。【関心・意欲・態度】
○基本となる技（巻小手）の動作ができる。【技能】

過程	学習内容	指導上の留意点	評価（評価方法）
導入5分	1　ランニング・準備運動をする。 2　整列、点呼、挨拶をする。 3　健康観察、爪など、安全面・健康面の確認をする。 4　本時の目標を聞く。	・生徒が傷害の予防や、安全に対する意識を高められるような声かけをする。 ・礼法・作法の復習をし、伝統的な行動・考え方に関心を持たせ、気持ちを込めた正しい挨拶・作法ができるようにする。 ・練習場の状態、健康状態や爪の長さを確認し、生徒の健康・安全に対する意識を高める。 ・本時の目標と予定をスクリーンに提示し、授業に見通しを持たせ、学習意欲を高める（コンピュータ、プロジェクタ、スクリーン）。	
展開35分	1　講話（脚下照顧）を聞く。 2　基本となる技（巻小手）の練習をする。	・履物をそろえるとともに自分の行動を振り返り、日頃から心を整え、正しい行いができるようにする。 ・攻者と守者それぞれの動作に号令を付けて、全員で練習し、技のポイントを覚える。ポイントが理解できたら、２人１組で練習する。 ・練習相手を適宜代えることで、協力の仕方を工夫する場面をつくる。	◎伝統的な考え方を学び、人間として望ましい行動の仕方をしようとしている。 【関心・意欲・態度】（自己評価シート、教員の観察） ○巻小手の動作ができるようになる。 【技能】（自己評価シート、教員の観察）
まとめ10分	1　整理運動をする。 2　本時の振り返りとまとめ、自己評価シートに記入する。 3　健康観察をする。 4　次回の予告を聞く。 5　挨拶をし、片付けをする。	・よく使った部位を意識して整理運動をさせる。 ・本時の目標や学習内容をスクリーンに提示し、生徒が自己評価や授業のまとめをしやすいようにする。生徒が自分で授業のまとめをすることで、学習内容の定着と思考力、判断力、表現力を高める。 ・自分や周囲の生徒の健康を観察するよう指示し、自他の健康・安全についての意識を高める。 ・次回の予告をし、学習の準備性を高める。 ・礼法・作法の仕方を確認し、気持ちを込めた正しい挨拶ができるようにする。	＊本時の目標に対する評価の方法の１つとなる ・相手を大切にする礼法ができたか。 【関心・意欲・態度】

(7)　学習指導案（第三次　第７時）

本時の目　標

◎技のポイントや採点基準と課題、安全上の留意点を考え、仲間と意見を交わしながら練習ができる。【思考・判断】

○基本となる技を用いて攻防ができる。【技能】

過程	学習内容	指導上の留意点	評価（評価方法）
導入5分	1　ランニング・準備運動をする。 2　整列、点呼、挨拶をする。 3　健康観察、爪など、安全面・健康面の確認をする。 4　本時の目標を聞く。	・生徒が傷害の予防や、安全に対する意識を高められるような声かけをする。 ・礼法・作法の復習をし、伝統的な行動・考え方に関心を持たせ、気持ちを込めた正しい挨拶・作法ができるようにする。 ・練習場の状態、健康状態や爪の長さを確認し、生徒の健康・安全に対する意識を高める。 ・本時の目標と予定をスクリーンに提示し、授業に見通しを持たせ、学習意欲を高める（コンピュータ、プロジェクタ、スクリーン）。	
展開35分	1　講話（求める人間像）を聞く。 ・求める人間像＝「強くて、優しくて、賢い人間」 2　審判の仕方と採点規準を確認する。 4　グループで演武練習をする。	・少林寺拳法の技の練習と講話を通して、人間として望ましい行動や、豊かな学校生活ができるように、復習と確認をする。 ・審判の仕方と採点基準・技のポイントを示したプリントを配付し、演武の練習の方法を考えやすくする。 ・４人１組で技のポイント、演武の採点基準などを考え、互いに課題を解決するための意見を交換しながら、練習する場面をつくる。 ・攻防の間合い、突きや蹴りの接触などの説明をし、安全上の留意点を考えながら、練習できるようにする。 ・攻防がうまくできるようになったグループは、タブレットPCで自分たちの技能を撮影し、再生した動画を見て、課題を解決しながら練習する（タブレットPCをグループ分）。 ・演武発表会（試合）という目標を示し、学習意欲を高め意見交換がしやすい雰囲気をつくる。	◎技のポイントや採点基準と課題、安全上の留意点を考え、仲間と意見を交わしながら練習しようとしている。【思考・判断】 ○基本となる技を用いて、攻防ができている。【技能】（自己評価シート、教員の観察）
まとめ10分	1　整理運動をする。 2　本時の振り返りとまとめ、自己評価シートに記入する。 3　健康観察をする。 4　次回の予告を聞く。 5　挨拶をし、片付けをする。	・よく使った部位を意識して整理運動をさせる。 ・本時の目標や学習内容をスクリーンに提示し、生徒が自己評価や授業のまとめをしやすいようにする。生徒が自分で授業のまとめをすることで、学習内容の定着と思考力、判断力、表現力を高める。 ・自分や周囲の生徒の健康を観察するよう指示し、自他の健康・安全についての意識を高める。 ・次回の予告をし、学習の準備性を高める。 ・礼法・作法の仕方を確認し、気持ちを込めた正しい挨拶ができるようにする。	＊本時の目標に対する評価の方法の１つとなる。

(8) 学習指導案（第三次　第８時）

本時の目　標

◎演武発表会（試合）の行い方と課題、安全上の留意点を考え、仲間と協力しながら練習することができる。【思考・判断】
○基本となる技を用いて攻防ができる。【技能】

過程	学習内容	指導上の留意点	評価（評価方法）
導入5分	1　ランニング・準備運動をする。 2　整列、点呼、挨拶をする。 3　健康観察、爪など、安全面・健康面の確認をする。 4　本時の目標を聞く。	・生徒が傷害の予防や、安全に対する意識を高められるような声かけをする。 ・礼法・作法の復習をし、伝統的な行動・考え方に関心を持たせ、気持ちを込めた正しい挨拶・作法ができるようにする。 ・練習場の状態、健康状態や爪の長さを確認し、生徒の健康・安全に対する意識を高める。 ・本時の目標と予定をスクリーンに提示し、授業に見通しを持たせ、学習意欲を高める（コンピュータ、プロジェクタ、スクリーン）。	
展開35分	1　演武発表会（試合）の作法について学ぶ。 2　グループで演武練習をする。	・高段者による演武発表の動画を見せ、伝統的な作法を守ろうとする態度を身に付けるとともに、演武発表に向けての関心を高める（DVD、コンピュータ、プロジェクタ）。 ・審判の仕方と採点基準、技のポイントを、プリントを使って確認する。 ・４人１組で技のポイント、演武の採点基準などを考え、互いに課題を解決するための意見を交換しながら、練習する場面をつくる。 ・攻防の間合い、突きや蹴りの接触などの説明をし、安全上の留意点を考えながら、練習できるようにする。 ・タブレットPCで自分たちの技を撮影し、再生した動画を見て、課題を解決しながら練習する（タブレットPCをグループ分）。 ・演武発表会（試合）という目標を示し、学習意欲を高め意見交換がしやすい雰囲気をつくる。	◎演武発表会（試合）の行い方と課題、安全上の留意点を考え、仲間と意見を交わしながら練習しようとしている。 【思考・判断】（自己評価シート、教員の観察） ○基本となる技を用いて攻防ができている。 【技能】（自己評価シート、教員の観察）
まとめ10分	1　整理運動をする。 2　本時の振り返りとまとめ、自己評価シートに記入する。 3　健康観察をする。 4　次回の予告を聞く。 5　挨拶をし、片付けをする。	・よく使った部位を意識して整理運動をさせる。 ・本時の目標や学習内容をスクリーンに提示し、生徒が自己評価や授業のまとめをしやすいようにする。生徒が自分で授業のまとめをすることで、学習内容の定着と思考力、判断力、表現力を高める。 ・自分や周囲の生徒の健康を観察するよう指示し、自他の健康・安全についての意識を高める。 ・次回の予告をし、学習の準備性を高める。 ・礼法・作法の仕方を確認し、気持ちを込めた正しい挨拶ができるようにする。	＊本時の目標に対する評価の方法の１つとなる。

(9)　学習指導案（第三次　第９時）

本時の目　標

◎基本となる技の攻防を用いて演武ができる。【技能】
○伝統的な行動の仕方、採点基準、技のポイントを理解し、演武発表会（試合）の審判ができる。【知識・理解】

過程	学習内容	指導上の留意点	評価（評価方法）
導入5分	1　ランニング・準備運動をする。 2　整列、点呼、挨拶をする。 3　健康観察、爪など、安全面・健康面の確認をする。 4　本時の目標を聞く。	・生徒が傷害の予防や、安全に対する意識を高められるような声かけをする。 ・礼法・作法の復習をし、伝統的な行動・考え方に関心を持たせ、気持ちを込めた正しい挨拶・作法ができるようにする。 ・練習場の状態、健康状態や爪の長さを確認し、生徒の健康・安全に対する意識を高める。 ・本時の目標と予定をスクリーンに提示し、授業に見通しを持たせ、学習意欲を高める（コンピュータ、プロジェクタ、スクリーン）。	
展開35分	1　採点カードの記入、審判の方法についての説明を聞く。 2　グループで演武練習をする。 3　演武発表会（試合）をする。	・審判をするときの態度を説明し、演武を発表している生徒を尊重して、採点できるようにする。 ・採点基準、採点カード、技のポイントのプリントを使って審判の方法を確認することで、協力して演武の技能を高められるようにする。 ・採点カードに、個々の生徒の得点を記入すること、発表と審判の両方の立場を経験することで、自分を律し他者を尊重する態度が養えるようにする。	◎基本となる技の攻防を用いて演武ができている。【技能】（自己評価シート、採点カード、教員の観察） ○伝統的な行動の仕方、採点基準、技のポイントを理解し、演武発表会（試合）の審判ができている。【知識・理解】（自己評価シート、採点カード、教員の観察）
まとめ10分	1　整理運動をする。 2　本時の振り返りとまとめ、自己評価シートに記入する。 3　健康観察をする。 4　次回の予告を聞く。 5　挨拶をし、片付けをする。	・よく使った部位を意識して、整理運動をさせる。 ・本時の目標や学習内容をスクリーンに提示し、生徒が自己評価や授業のまとめをしやすいようにする。生徒が自分で授業のまとめをすることで、学習内容の定着と思考力、判断力、表現力を高める。 ・自分や周囲の生徒の健康を観察するよう指示し、自他の健康・安全についての意識を高める。 ・次回の予告をし、学習の準備性を高める。 ・礼法・作法の仕方を確認し、気持ちを込めた正しい挨拶ができるようにする。	＊本時の目標に対する評価の方法の１つとなる